

五分館だより

第38号

豊丘村公民館
第五分館
責任者 堀本 明一
編集 社会部
印刷 龍共印刷(株)

堀越の今日

H13. 3. 1 現在
戸数 93戸
人口 387人

講演会

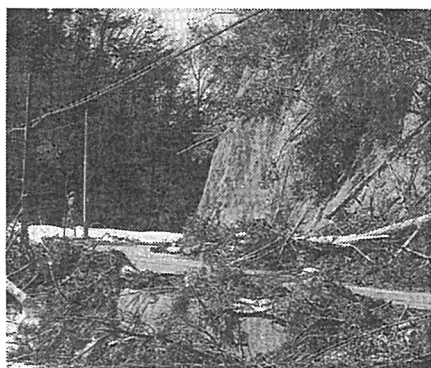
「活断層について」

講師 松島信幸氏

最深積雪五十六センチ、降雪量一日五十センチ、飯田測候所はこのほど、大雪に見舞われた一月の気象状況をまとめたと新聞に出していた。

二十七日から雪がふりはじめた。この一日にふった雪は、私にとって初めての経験だ。朝七時から除雪を開始し十時に終了した。その後黒谷線では倒木がはじまった。区の委員がチェーンソーを持って片付ける中、通る車と車の間に松の木が倒れるのを見た。二時〜二時三十分、松の木がバタバタ倒れはじめた。数台の車が動けなくなり、松の木を切って迂回してもらった。

通行止めになる。これで堀越へは上がれない。

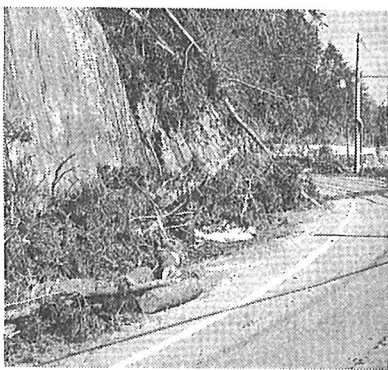


昼の二時か三時に電線が切れ、夜までには電気が来ると思っていたが、来なかった。夜になるとたいへん。

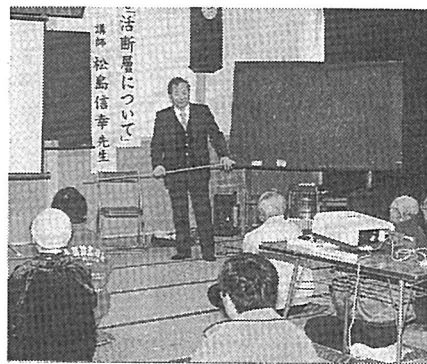
どの家でも電化生活に慣れているため、テレビ、冷蔵庫、ストーブ、こたつが使えない。昔使ったマメタンこたつや炭などを出し、この夜を過ごした。電池、ローソクなどの明りで夕食をし、寒い暗がりの中、一夜を過ごす。

電気の復旧は、堀越で三時間、胡芝の数戸は四十時間かかり、もっと早く復旧してほしいと思った。

堀越に上る道路は、黒谷線と長沢西部線が通行止めになると、やや巾の狭い胡桃沢線だけとなるが、幸い道路改良され陽あたりも良



講演会はスライドを使い目で見てわかり易いもので、豊丘の地層や対岸から見た豊丘の地形、成り立ちはある程と思うことが沢山あり、大変勉強になった。また、くんだり、多少の支障はありましたが、通行できたのが唯一の救いであった。



この近くで地震が起りそうな所もなく、一安心する思いもあった。休憩後、ダムが及ぼす自然への影響や自然保護の話も興味深く、南信濃村の河床低下で橋脚があらわれ橋が倒壊したことや平谷村の水害等の事例はとても説得があった。堀越に建設が予定されている郷土沢ダムは区総会でも改めて説明があったばかりで、河床低下による災害は大丈夫かなあと思ったのは私ばかりではなかったと思う。そんな矢先に田中知事の「脱ダム宣言」。今はとても複雑な思いがする。

ダム建設による河床低下の影響や自然破壊と、治水利水対策の効果と必要性。建設に伴う経済効果を両面で考えた時、今回の講演会はいろいろと考えさせられるよい機会になったと思う。

武田陽二

黒谷箋

ここ数日の暖かな春の日ざしに、梅のつぼみも大部はころんで来ました。

春の訪れは私にとって、花粉症という辛い副産物を連れて来ますがやはり嬉しいものです。特にこの冬は寒さも厳しく、雪も多く、雪かきの板の角が、丸くなる程、幾度も雪かきをしたものです。

とりわけ、一月二十七日から降り出した雪は二十八日も続き、七十二年ぶりという大雪になりました。かいてもかいても降り続く雪に、生まれて初めて雪の恐ろしさを感じました。又大雪に伴い約二日間停電してしまいました。これ程長い停電は経験した事もなく、暗くなってからの心細さと不便な事といったらありませんでした。最近では、何もかも電化が進み、毎日の生活に電気はなくてはならない物です。送電の復旧の為、夜遅くまで工事をして頂いた電力会社の方や区の委員の方にもお世話になり有難く思いました。今度の雪害では、水も出てガスも使えたので助かったのですが、大きな災害に備えてどの様に対処するかをもう一度考え直さなくてはと思いました。

田島

地区婦人学級

いのちの根を育もう

松川公民館館長 鋤柄 郁夫

おじいちゃん 柿も熟した 死んだらあかん

感性は人間らしく生きる基盤

感動・感謝・畏敬・思いやり・布施（ボランティア）
豊かな感性の大地に 確かな知性が育つ

いのちの根

みつを

なみだをこらえて

かなしみにたえるとき

ぐちをいわずに

くるしみにたえるとき

いいわけをしないで

だまって批判にたえるとき

いかりをおさえて

じつと屈辱にたえるとき

あなたの眼のいろが

ふかくなり

いのちの根が

ふかくなる

自分の番 いのちのバトン

相田みつを

父と母で二人

父と母の両親で四人

そのまた両親で八人

こうして数えてゆくと

十代前で、千二十四人

二十代前では――？

なんと、百万人を超すん

です

過去無量の

いのちのバトンを

受けついで

いま、ここに

自分の番を生きている

それがあなたのいのちです

それがわたしのいのちです

子供が親に望む事

- ・比べないで
- ・くどくど言わないで
- ・気持ちを分かかって下さい
- ・話し相手になって下さい
- ・楽しい家庭にして下さい

私達が子供の頃、人々との付き合い方や、何が良くて何が悪いのかを誰からどのように学んだでしょう。思い出して見てください。

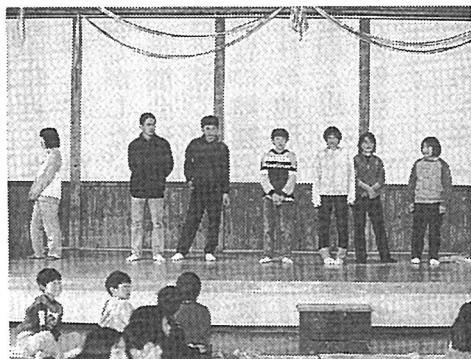
子供たちの心の成長は、六歳までにその土台が出来上がり、思春期を迎える頃にそれまで育ってきた環境や経験が大きく影響して、その後大人になって行く、と何かで聞いた事があります。そしてその一番大事な時期に接しているのが友達であり、そして親です。

ある映画の中で母親が忙しい父親に向かってこう言いました「子供たちが親と一緒に居たいと思う時期はほんのわずかしかなさ。それを過ぎてしまえばもう振り返ってはくれない」と。

『お別れ会』開催

堀越青少年育成会

育成会事業の一つとして、中学校の卒業生と小学校の卒業生を送る「お別れ会」が、毎年三月の下旬に催されています。今年も三月二十日、中学生・小学生・保



育園児とそれぞれのPTA役員からなる総勢八十名余が区民会館に集いました。行事内容としては、昼食準備班と区内ゴミ収集を行う奉仕活動班に別れて午前九時から十一時頃まで行つてから昼食会。子供たちの意見を取り入れた、カレーと野菜サラダとデザートで満腹になりました。

次に、小中学生七名をメインとしたお別れ会。卒業生それぞれから後輩へのメッセージをもらいました。最後は、ビンゴゲームでそれぞれの子供が喜一憂



し、無事お別れ会を終了。今後数年は、今回のように大勢の出席者を迎えたお別れ会を催す事ができますが、ご存知の通りこの堀越においても子供の数が減ってきており、先の事を思うとどうしたものかと考えてしまいます。育成会が今後も毎年同じ様に続いてくれる事を願うばかりです。

第五分館奉仕活動報告

第五分館では奉仕活動の一環として、黒谷線を中心とした堀越区内のゴミ拾いを実施しています。

今年はこの一月の大雪による倒木と残雪の影響もあり、区内のゴミ拾いは四月に延期となりました。しかし、区内各所に設置してあるゴミ缶の回収と分別を行った結果、ゴミ袋六袋の空き、空き瓶が整理でき、改めてゴミの多さを実感した次第です。未だに放置されてい



手で阻止したいものです。四月に予定されている第五分館役員による黒谷線ゴミ拾い。興味のある方は是非ご参加ください。